

(2) 研究の方向

ア 分析

資料2から、次のようなことが分かる。

質問事項①から、自分の考えをうまく伝えることに課題があると感じている子供が多い。

質問事項②③から、他者の意見を理解したり、それぞれの意見のよさを生かしてよりよい考えをつくり出したりすることに難しさを感じている子供が多い。さらに、これら

の課題は、国語科の学習においても、同じことが言える（質問事項④）。

質問事項⑤から、各教科等の学びを、他教科等や日常生活へ生かそうとする意識が薄い子供が多い。

質問事項	割合※1 (本校)	割合 (全国)
① 自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表しているか。	60%	62.5%
② 話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり深めたりすることができるか。	60%	74.1%
③ 互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか。	60%	74.0%
④ 国語の授業で自分の考えを表現するとき、うまく伝わるように工夫しているか。	40%	58.5%
⑤ 授業で学んだことを、他の学習に生かしているか。	40%	83.9%

※1 質問で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択した子供の割合

【資料2 平成31年度全国学力・状況調査児童質問紙】

イ 考察

これらのことから、本校の課題解決を図るために、国語科で「自分の考えを互いに分かりやすく伝え合う」ために必要な言語能力を育成し、他教科等や日常生活に広げていくことにした。そのため、自分の考えを形成し、話し合いを通して自分の考えを広げたり深めたりすることに不可欠な「対話的な学び」に重点を置いた授業づくりを行うことが大切だと考え、本研究主題を設定した。

3 基本的な考え

(1) 研究主題の捉え方

ア 「分かりやすく伝え合う」とは

子供が良好な友達関係を築きながら、相手の考えとその理由を理解したり、自分の考えとその理由を明確にして表現したりすること

自分の考えを相手に分かりやすく伝えるためには、一方的に自分本位で伝えようとしてもうまく伝わらない。話し手、聞き手のどちらの立場でも、相手を理解し、その状況を踏まえて伝えたり、受け取ったりすることが大切である。